

みなみ

南区人権尊重啓発連絡会議だより



区の広報担当キャラクター ため蔵

広報紙みなみのこと知ってる？

地域社会や家庭生活の中で人権意識を高め、人権が尊重される明るいまちづくりをめざし、南区の人権尊重団体の連合体が、毎年3月に発行しています。



PDF版とバックナンバーはこちらから

事務局
福岡市南区
生涯学習推進課
TEL:559-5172
FAX:562-3824

報告

南区人権を考えるつどい

令和6年10月4日(金)
南市民センター文化ホール

●後日録画配信含む



365人参加

性別に「こだわらないもの」の見方とは？ 「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」を乗り越えるために」



講師
西南学院大学
人文学部 教授
倉富 史枝 さん

最近よく耳にするアンコンシャス・バイアスについて、人権や男女共同参画という視点からお話がありました。

アンコンシャス・バイアス(unconscious bias)とは、「意識した、気づいている」を意味する「CONSCIOUS(コンシャス)」に否定を意味する接頭語である「UN(アン)」、そして「偏り、偏見、歪み」を意味する「BIAS(バイアス)」で構成された英語であり、自分でも意識せずにもっている、特定の人や集団に対する偏った見方や考え方のことを言います。

誰の中にもある無意識の思い込み

例えば、タクシーに乗った時に運転手さんが女性だったら「あれ、大丈夫かな？」と不安になることがあるとしたら、それは、女性より男性の方が、運転が上手だと思



込んでいる、そのような見方もアンコンシャス・バイアスです。

アンコンシャス・バイアスの問題は、「差別はいけない」とか「男性と女性と同じように活躍できる」と思っている人でも持ってしまったという事です。潜在意識の中に男性と女性の違いがあるところかです。気づかないところで差別をしてしまう可能性があります。

アンコンシャス・バイアスを乗り越えるために

こうした無意識の思い込みについて、まずは、自分が「なぜそう思ったのか」と立ち止まり、自分の「無意識の偏見」に気付くこと。そして、それに気付いたら、これからの子どもたちのために偏見を持たないような環境をつくることです。

こんな画像使ってみませんか？

「男女共同参画に関するフリーイラスト」で

検索



内閣府男女共同参画局
「固定的役割分担にとらわれないデザイン素材」より

令和6年度 福岡市人権尊重週間行事の紹介

主催:福岡市人権尊重行事推進委員会
第53回 福岡市人権を尊重する市民の集い(南区会場)

部落問題と向き合う私たち ～結婚差別を乗り越えて～

令和6年12月10日(火)
南市民センター文化ホール

●後日録画配信含む 365人参加

講師 石井千晶さん 石井眞澄さん



二人の差別体験

千晶さんが中学生の頃、友達の家遊びに行った時のことです。千晶さんの住む地域を知った友達のお母さんが友達に「その子と遊ぶのやめとき。怖い地域の子や」「帰ってもらいなさい」と言っているのを聞いてしまいます。自分の住んでいる場所をこのように言われたことにショックを受けますが、その友達はこれまでの部落学習のおかげで、「なんで部落差別によって私たちがひきさかれなアカんの！」と気づいてくれたのです。

一方、サラリーマンとして働いていた眞澄さん。車で移動中の出来事です。とても尊敬している上司から「この町、気を付けや。事故でもしたら大変なんや、危ないところ...」と。眞澄さんは差別発言と気づいたにもかかわらず、「おかしいですよ」と言えない自分に後悔します。

そんな眞澄さんが大学時代につきあっていた彼女は部落出身でした。彼女と親が話している中で親が気づき、「あの子がこういう地域の子か知ってんのか」「やめとき」と言われます。一生懸命わかるように訴えますがわかってもらえませんでした。つらかったのは自分の親が、差別をしていることでした。

変わってくれた親

眞澄さんは、大学時代の彼女と別れ、千晶さんとの結婚の話が出た時も、親のこれまでの発言で悩んでいました。しかし、親は子どものために、人権学習などに参加したり、身近な人へ相談したり、色々と勉強を重ねていました。結婚の相談に行った時には「千晶さんを幸せに。二人でいい家庭をつくって」とも。何より嬉しかったのは差別していた親が変わってくれていたことです。

誰もが生きやすい世の中に

「日常的に差別して転がっていると思うんです」と千晶さん。「部落差別のこと、正しいことを知らなければ差別はどんどん広がっていく」と眞澄さん。私たちは、普段から学習をして、ちょっとした言葉にも引っかかるような人権感覚を磨いていくことが大切です。



お互いの言葉を丁寧に確認しながら話されるお二人

令和6年度 福岡市人権尊重作品

主催：福岡市人権尊重行事推進委員会



南区の入選作品（標語、ポスター・絵画）をご紹介します。

思いやり思うだけじゃ
行動してこそ思いやり

気をつけて ふと出た言葉は
もどらない

認め合おう 心も身体も考え方も
みんな違ってあたりまえ

その痛み 仮想じゃないよ
リアルだよ

見て見ぬふりはもうしない
勇気をもって「私」から



共に生き 互いに認め 歩む未来

「大丈夫？」 あなたの言葉 希望の光

その個性 分かり合う事で 開く道

いいんだよ 自分が好きな 君でいて

SNS 本名だせる？ その言葉

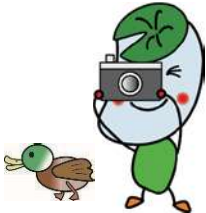
その言葉 誰かの心に 刺さらない？

育てよう 差別に気づく あなたの目



校区に
おじゃまして～す！

各校区の取り組みをご紹介します。わたしたちの校区はこんなことしているよ！みんなに知らせたい！というみなさま、ぜひ事務局（生涯学習推進課）にご連絡ください。人権教育推進員がおじゃまします！



鶴田校区 ▶ 三世代交流 平和学習 8/6

鶴田校区では毎年8月6日、人権尊重推進協議会のメンバーを中心に、平和学習を15年以上続けています。今年の交流では、パネルを使った原爆の説明、紙芝居の上演、子どもたちによる詩や絵本の朗読、折り鶴作りをしました。戦争体験のない人にも分かりやすいように毎年工夫しています。



「戦後79年」、お話を聴く参加者

人権尊重推進協議会の会田会長は、「世界では、今日も戦争が続いています。日本は戦後から79年が過ぎようとしています、これ

まで世界中の何処にも戦争のなかった日は1日たりともありません。これが『私たちの生きている世界』の現実なのです。

平和とは戦争がないだけでなく一人ひとりが輝いている、一人ひとりの命が大切にされている社会のこと。

校区の先輩方が毎年続けてこられた大切な行事。これからも続けていきたい」と平和への思いを語られました。



折り鶴に平和への願いを込めて

三宅校区 ▶ 人権啓発街頭キャンペーン 10/26



三宅校区人権尊重推進協議会メンバーが、今年も、三宅中学校の生徒さんや先生とともに、啓発チラシの配布とアンケートを行いました。

「21世紀を人権の世紀に」と記されているたすきをかけ「いじめは差別の一つですか」など、通行人へ質問をする中学生の爽やかな姿が好評であり、幅広い年代の方から回答をいただきました。

キャンペーンについて「先人から受け継いだ大切な行事です」と語られる挾間会長。

毎年3月5日を「三宅校区 人権の日」と定め、人尊協は設立から30周年を迎えました。「行動ある人尊協」をモットーに活発な啓発活動を行ってられます。



「ご協力お願いします！」